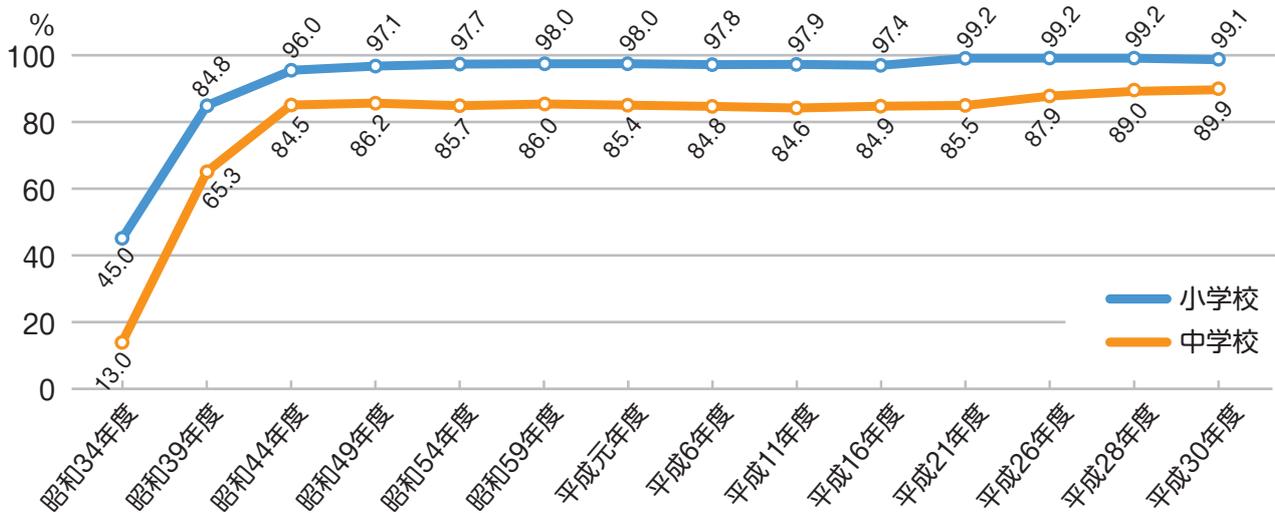


日本の学校給食はいつから実施されているの？

日本の学校給食の発祥は、明治22年山形県鶴岡町(現鶴岡市)の私立忠愛小学校とされています。その後、都市部を中心に広まり、戦後の厳しい食糧事情を乗り越え、全国的に普及していきました。

現在は小学校でほぼ100%、中学校で90%弱の学校で給食が実施されています。

小学校・中学校の学校給食実施状況



出典:学校給食実施状況等調査

対象:国公立小・中学校

学校給食における地場産物・国産食材の使用割合

平成30年度、学校給食における地場産物の使用割合は、26.0%、国産食材の使用割合は76.0%となっています。

出典:平成30年度学校栄養報告の調査結果をもとに算出(食品数ベース)



学校給食に地場産物・国産食材を活用することは、児童生徒に地域・国の産業や文化への関心をもたせるなど、教育的意義を有しています。

国においても、食育基本法や食育推進基本計画に基づき、郷土食や地場産物・国産食材の使用を推進しています。